【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	愛媛県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	玉川町立九和小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	１	１	１	１	１	１	２	８	１３
児童数	４０	３７	２０	２２	３１	３５	４	１８９	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

「豊かな心をもちいきいきと表現する子」の育成
～一人一人を大切にした指導の工夫改善を通して～

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

＊　実施学年及び教科を選択した理由
・１～２年生・国語
　昨年度のＣＲＴ検査の結果から、低学年においては、「読む・書く」という基礎・基本の確実な定着を図るのため
・３～４年生・算数
　昨年度のＣＲＴ検査の結果から、算数科において児童の習熟度に差が出始め基礎・基本の確実な定着が必要であるため
・５～６年生・算数
　昨年度のＣＲＴ検査の結果から、児童の習熟度の差があり、基礎・基本の確実な定着が必要であるため

(2)　年次ごとの計画

平成15年度

○　テーマ
　一人一人を大切ににした指導の工夫改善
○　研究の見通し（仮説）
　確かな学力を身に付けさせるためには、自分の力に自信をもち、自分に力をつけることが大切である。
＜仮説１＞
・　個を大切にした授業改善を試み、基礎・基本の定着が図れるよう指導の工夫改善をすることによって、心豊かにいきいきと表現できる子が育つであろう。
＜仮説２＞
・　補充学習を工夫し、児童にわかる喜び、やる気を育てることにより、基礎・基本の確実な定着が図れるであろう。
○　研究の内容・方法
１　個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善
(1) 指導体制の工夫改善
・　１・２年・・・国語「書く活動」　２人の教師による指導（Ｔ１・Ｔ２指導の工夫）
・　３・４年・・・算数　１人の教師による指導
・　５・６年・・・算数　１クラス２人の教師による指導（Ｔ１・Ｔ２指導の工夫）
(2) 指導方法の工夫改善
・　児童の実態把握のための調査
・　Ｔ・Ｔ指導方法の工夫
・　習熟度別指導の工夫（プリント学習を通して）
２　発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発

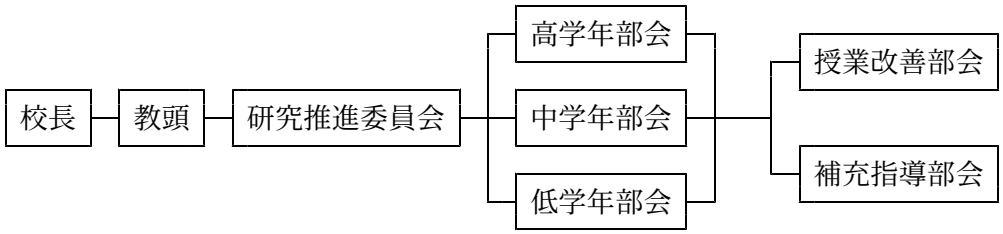
(1) 補充的な学習の時間として、月曜日の放課後にﾁｬﾚﾝｼﾞﾀｲﾑを設定
(2) １週間の学習の振り返りの場としてのドリル学習の時間の設定
３　児童の学力の評価を生かした指導の改善
(1) ポートフォリオを活用した評価の工夫
(2) 全学年新観点別到達度学力検査ＣＲＴの実施と考察

平成16年度

○　テーマ
一人一人を大切にした指導の工夫改善
○　研究の見通し（仮説）
児童が確かな学力を身に付けるためには、自分の力に自信をもち、自分に力をつけることが大切である。
＜仮説１＞
・　個を大切にした授業改善を試み、基礎・基本の定着が図れるよう指導の工夫改善を行えば、心豊かにいきいきと表現できる子が育つであろう。
＜仮説２＞
・　児童にわかる喜び、やる気を育てることをねらったスキルタイムを設定し計画的に行えば、基礎・基本の確実な定着が図られ、自分に自信をもつことができる子が育つであろう。
○　研究の内容・方法
１　個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善
(1) 指導体制の工夫改善
・　Ｔ・Ｔ指導や少人数指導（Ｔ・Ｓ）体制の確保のため、管理職や養護教諭、障害児教育担当、児童生徒支援担当を含む全ての教職員を低・中・高学年部に配置し、教職員一人一人の個性を生かし、教職員の協働体制を柔軟で有機的なものにしていくことを基本目標とする。
・　１・２年・・・国語「書く活動」　２人の教師による指導（Ｔ１・Ｔ２指導の工夫）
・　３～６年・・・算数（Ｔ・Ｔ指導やＴ・Ｓ指導の工夫）
(2) 指導方法の工夫改善
・　国語科・算数科における基礎・基本ととらえる本校の「身に付けさせたい力」の位置づけ
・　問題解決的な学習過程におけるＴ・Ｔ指導とＴ・Ｓ指導の位置づけ
・　算数科における自力解決や練り合いの場での個に応じた指導
・　算数科における定着を図る場での個に応じた指導方法
・　国語科における言語事項に関する指導の場での個に応じた指導方法
・　国語科における「書く活動」の指導の場での個に応じた指導方法
２　発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発
(1) 習熟度（コース）別プリントによるチャレンジタイムの効果的な運用
(2) 基礎・基本の定着を図り、１週間の学習の振り返りの場としてのドリルタイムの運用
３　児童の学力の評価を生かした指導の改善
(1) 事前評価として、単元導入前に既習内容の理解度を診断し、単元の指導計画の作成の資料とする。
(2) 事中評価として、ポートフォリオを活用し理解状況を把握し、個別指導の方策を探る。
(3) 事後指導として、単元で学習した内容の定着度を確認し、チャレンジタイムやドリルタイムへの指導に生かす。
(4) 総合評価として、年度末にＣＲＴ検査を行い、学習状況の定着状況を領域別観点別に把握し、その結果をもとに指導方法の見直しを検討する。

(3)　研究推進体制

＜研究組織図＞



○　全教師が児童に関われるような指導体制をとる。
○　国語・算数という確かな学力を身に付けるために基礎・基本となる教科を研究教科とした。
○　授業改善部会では、Ｔ・Ｔによる指導法の工夫、習熟度別指導の工夫、指導と評価の一体化について研究を進めていった。
○　補充指導部会では、基礎・基本の定着度を見るチャレンジタイムの運用、ドリルタイムによる繰り返し指導の工夫について研究を進めていった。
○　少人数指導加配等、加配のない状況において、各自が個人研究テーマを設定し、年間を通じて研究の積み上げができるようにした。

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

○　個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善

・　児童の実態把握からの単元構成（６年生　算数「割合を使って」）

本単元「割合を使って」地関係する児童の実態調査（H15．11.26 実施）

1	赤のテープが、２ｍあります。 青のテープは、赤のテープの３倍の長さがあります。青のテープは、何ｍでしょう。	正答　３６名 誤答　０名
2	ただしさんの家から駅までは、１．４ｋｍあります。ただしさんの家から学校までは、駅までの距離の２．５倍あるそうです。学校までは、何ｋｍでしょう。	正答　３２名 誤答　４名 無回答　１名 計算における誤答　３名
3	４００㎡の公園のうち３／１０に花が植えてあります。花が植えてあるのは、何㎡でしょう。	正答　３０名 誤答　２名 無回答　１名 立式の間違い　１名 約分ができない　４名
4	ある学校では、全校児童のうち１／５が６年生で、３０人だそうです。この学校の全校児童は、何人でしょう。	正答　３０名 誤答　２名 無回答　５名 立式まで　１名

事前調査をすることにより、児童のつまずきを調べることができ、それをもとに単元構成を考えた。Ｔ・Ｔ指導をどの場面で行うか、つまずいている児童にどのような教材を与えるかなど、個に応じたきめ細かな指導が可能となった。

指導後の評価テストでは、次のような結果となった。（６年生　３６名）

得点分布	人数
０～１９	０
２０～３９	０
４０～５９	２
６０～７９	３
８０～１００	３１

○　単元指導計画及びＴ，Ｔ指導計画

単　元	内　容	時　数	
割合を使って	・全体を１とし、部分の割合を考えて解く問題	1	4
	・全体を１とし、部分の割合の和を考えて解く問題	1	
	・割合の差を考えて解く問題	1	
	・割合の積を考えて解く問題　（本時）	1	

Ｔ１の支援	ねらい	Ｔ２の支援
○　問題場面を提示する。 ○　線分図での表し方について話し合わせる。 ○　コース別のワークシートを配布し、問題解決させる。 ○　発展コース選択者を中心に机間指導する。	○　全体を１として、部分の割合を考えて、問題の解決ができる。	○　机間巡視をしてヒントを与える。 ○　基本コース選択者を中心に机間指導する。 ○　本時の学習のポイントについてまとめ
○　問題場面を提示する。 ○　線分図や関係図で問題場面を表させ、問題の組み立てを考えさせる。 ○　コース別のワークシートを配布し、自力解決するよう指示する。 ○　基本コース選択者を中心に机間指導する。	○　全体を１として、割合の差を考えて解く問題を解決することができる。	○　机間巡視をしてヒントを与える。 ○　発展コース選択者を中心に机間指導する。 ○　本時の学習のポイントについてまとめる。
○　問題場面を提示する。 ○　関係図や面積図で問題場面を表す方法について話し合わせる。 ○　コース別のワークシートを配布し、自力解決するよう指示する。 ○　基本コース選択者を中心に机間指導する。	○　全体を１として、割合の積を考えて問題の解決ができる。	○　机間巡視をしてヒントを与える。 ○　発展コース選択者を中心に机間指導する。 ○　本時の学習のポイントについてまとめる。

＜愛媛県教育会作成　算数の力だめしより＞

十分理解できていないと考えられる５名に対しては、ﾄﾞﾘﾙﾀｲﾑにおいて、個別指導を繰り返すことによって基礎・基本の定着を図った。

・　１年生国語科における文章を書く活動についての意識の変容

書くことが好きですか？	好き…１２名	普通…１９名	好きではない…９名
（指導後）	好き…２４名	普通…１３名	好きではない…３名

１学期の学習を見ていると、書きたいことを話すことはできても、何をどのように書いたらよいかわからなくなる児童が見られた。このことが苦手意識をもつ要因と思われた。そのため、今回の指導では、苦手意識のある児童に、書く抵抗感を少なくするための手だてとして、Ｔ・Ｔ指導が効果を奏したと考えられる。

○　習熟度別指導の工夫

算数科において、１単位時間内に習熟の程度に合わせてプリント学習を取り入れ、基礎・基本の定着が図れた。

＜指導の流れ＞

一斉指導 → 習熟度別プリント学習（基本コース）（発展コース） → 本時のまとめ

・　習熟度別プリント学習についての調査（全校児童：１８９名　１月実施）
◇　「はい」の割合
「コース別学習は（プリント学習など）は好きですか。」

学　年	１　年	２　年	３　年	４　年	５　年	６　年	全校平均
%	８０	８３	７２	８２	９３	６９	７９．８

　コース別学習やプリント学習に対して、児童は意欲的に取り組んでいる。意欲をもって取り組むことによって、学習事項の定着が図れるようになってきた。

○　発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導の充実
・計画的なチャレンジタイムの運用
＜指導の基本パターン（プリント学習）＞

基本問題
↓
しっかり
↓
きっちり
↓
ばっちり
↓
自己評価

・　１時間の流れ
　基本プリントをし、自分のコースを決め、自力解決に取り組む。できたら、次のコースに取り組む。
（しっかりコース）
　基礎的指導を受けたいコース
（きっちりコース）
　基本問題程度を一人で解けるコース
（ばっちりコース）
　基本問題～発展問題までを一人で解くことができるコース

・　習熟度別プリント学習についての調査（全校児童：１８９名　１月実施）
◇　「はい」の割合
「自信をもって、問題を解くことができるようになったと思いますか。」

学　年	１　年	２　年	３　年	４　年	５　年	６　年	全校平均
%	８０	８３	７２	６８	６３	５９	７９．８

　学年が進むにつれて、値が下がっていく意向にあるが、４月に比べて、意欲的に取り組めるようになってきた。
　チャレンジタイム・ドリルタイムを実施してきて、児童のつまずきがわかりそれを授業に生かせたことは大きな成果であった。また、児童は自分で問題を解く楽しみ、わかる喜びを感得できたようだ。

２．今後の課題

○　算数についてのアンケートの結果（全校児童：１８９名　１月実施）
◇　「はい」の割合（%）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	平均
計算をするのは好きですか。	８８	７１	６７	６８	７７	５４	７１
自分で考えて問題を解くことが好きですか。	７３	６３	５０	５９	５０	５１	５８
すすんで家庭で算数の学習をしていますか。	７０	７４	６１	４１	５７	３７	５７
４月と比べて算数が好きになりましたか。	９３	８３	８９	８２	８７	６０	８２

・　自力解決を好む児童が、学年があがるにつれて低くなる傾向にあるので、問題解決的な学習過程を指導計画の中に位置づける。
・　１単位時間において、自力解決や練り合いの場を位置づけ、個を生かす

ための授業改善を行う。
・　算数の学習の日常化を図るための工夫（家庭学習を含めて）

○　国語についてのアンケートの結果

◇　「はい」の割合（%）

	１年	２年	３年	４年	５年	６年	平均
新しい漢字を習うのは、楽しいですか。	７５	４６	８３	６８	６７	６０	６７
文章（作文や日記等）書くのは楽しいですか。	４８	４７	５０	４５	４７	４０	４６
すすんで家庭で国語の学習をしていますか。	５５	４３	３９	３２	４３	７４	４８
４月と比べて国語が好きになりましたか。	７０	８９	７８	９１	８３	７４	８１

・　２年生になると、新しく学習する漢字の数が急激に増加する。言語事項に関する指導の場での個に応じた取組が必要となる。
・　書く意欲を高めるための学習過程におけるＴ・Ｔ指導とＴ・Ｓ指導の位置づけを研究し、授業改善を行う。
・　進んで読んだり書いたりすることが、国語科における基礎・基本の定着につながる。国語の学習の日常化について工夫する。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

○　ＣＲＴ教研式標準学力検査（全学年）
調査の目的：観点別学習状況、到達度状況の把握
実施内容　：低学年は、国語と算数　高学年は国語、算数、理科、社会
実施時期　：２月中旬

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

○　地区協議会での取組発表
○　平成１６年１０月　研究発表会の実施
○　九和小学校ＨＰ上での取組の公開
○　地域参観日等での授業公開

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　■ １５年度からの新規校　□ １４年度からの継続校

【学校規模】　□６学級以下　■７～１２学級　□１３～１８学級　□１９～２４学級　□２５学級以上

【指導体制】　□ 少人数指導　■Ｔ．Ｔによる指導　□ 一部教科担任制　□ その他

【研究教科】　■ 国語　□ 社会　■算数　□ 理科　□ 生活　□ 音楽　□ 図画工作　□ 家庭　□ 体育　□ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　□ 有　■ 無